

和歌山U-13 タイ遠征報告

2015年12月23日～12月27日

目的

- より高いレベルのサッカーを追求し、選手の育成を図る
- 海外を経験 環境への適応
- 積極的にコミュニケーションをとる
- 将来世界で闘える選手になる

メンバー

《スタッフ》

団長：砂金哲之

事務局：内藤香菜子

監督：清水和男

コーチ：本藤大成

トレーナー：増田勇樹

《選手》

和歌山U-13所属選手（FP15名、GK2名）

スケジュール

- 12月24日(木) 10:00 vs トレーニング
16:00 vs バンコク・グラスU-15
- 12月25日(金) 10:00 vs バンコク・グラスU-15
19:00 vs ベトナムPVF U-14
- 12月26日(土) 9:30 vs BECテロ・サーサナ
16:00 vs チョンブリ

結果

バンコク・グラスU-15① 2-3(0-2、1-1、1-0)

バンコク・グラスU-15② 0-2(0-2、0-0)

ベトナムPVF U-14 1-4(1-3、0-1)

BECテロ・サーサナ 7-1(3-0、4-1)

チョンブリ 1-3(0-2、1-1)

※30分ハーフ

成果

- 試合をしていく中で、戦う姿勢をプレーで表現できる選手が増えた
 - 最初の試合は、引いてしまうことが多かった
- 球際を強く行くことで、ミドルサードでボールを奪える場面が増えた
- 攻撃の優先順位を意識し、スペースへアクションをすることができた
 - 判断を伴ってプレーできていない時は、ボールを失う場面が多い
 - 味方とスペースを共有することが少ない

成果

- 普段、プレーしないポジションでも力を発揮できる選手を発見できた
- 離脱する選手が多く出たために、最後まで出場した選手(11人)は5試合をタフに戦うことができた

課題

- スピードがある選手に対してのポジショニング、対応に課題があり、一発でディフェンスの背後を突かれる場面が多かった
- ハイボールの処理が不安定で自滅する場面があった
- アタッキングサードでの突破力、崩し、決定力(個人、グループ)に課題が残った
- ブロックを作る相手に対して、相手を変化させることのできる選手や選択肢を持ちながらプレーできる選手が限られていた
- 日本の同年代とでは、ある程度技術を発揮できる選手でも、強度が上がった中では技術を発揮できなかった

成果(オフザピッチ)

- 日本からタイまでの移動や滞在中で、スタッフからの指示がなくても自分たちで考えて行動できることが多かった
- タイの選手やスタッフとコミュニケーションをとれる選手が多かった

課題(オフザピッチ)

- 怪我と熱中症等で4人の選手が1試合、2人の選手が3試合しか出場することができなかった
- 食事の量を自ら十分に摂取できる選手が少なかった
 - スタッフから強制的に量を確保させた

総括

- 対戦相手に関して、U-15又はU-14のチームは体格やスピードが数段勝っていたが、同年代は同じくらいのパワーバランス(BECテロ・サーサナを除く)であった
- 気温と湿度は日本の夏並みであったが、水分と氷を十分に準備して頂いたので水分補給の面では助かった
- 食事の内容が日本食よりで前回の遠征時よりも食べやすかったが、栄養バランスは偏りがあったために補食で補った

総括

- 選手17名の内、15名が海外初経験の中、U-13の年代で海外を経験でき、まだまだ通用しないことが多いこと、異文化で環境も慣れない中で5試合を戦うことは選手たちの成長にとって非常に良い経験になった
- 今回、メンタル的にもフィジカル的にもタフに戦えた選手がいる反面、そうでない選手もいたので、それを自覚させ、今後にも必ず活かしていきたい

移動



宿泊施設



食事



食事2



熱中症対策



熱中症対策2



ユニフォーム交換



ユニフォーム交換2



感謝の気持ち

